

但身元金ハ開業出願ノ際差出其金額ヲ願書ニ記載スヘシ
 第三條 運送物ノ荷造租税ニシテ運送中滯留漏脱等ノ難ヲ防ク能
 ハサルト思慮スル時ハ荷主ヲシテ其改造ヲナサシムヘシ
 第四條 送狀ヲ添付セサル運送物ハ取扱ヘカラス又送狀ニハ左ノ
 各項ニ倣ヒ荷主ヲシテ詳記セシムヘシ
 一 但荷主ニ代リ營業人ニ於テ添付スル時モ亦本條ニ倣フヘシ
 一 荷主及届先ノ住所姓名并ニ差出年月日
 一 物品ノ種類價格及個數斤量
 一 貨錢ノ拂方(前拂先拂等)及運送方(馬車便車便定便等)ノ區別
 一 前諸項ノ外運送上必要ノ件
 第五條 運送物ヲ受取タル時ハ前條ニ倣ヒ詳記シタル受取証ヲ荷
 主ニ渡サシムヘシ

第六條 運送物他ヨリ到着スル時ハ損害ノ有無等ヲ點檢シ若異狀
 アリト思慮スルモ外面ヨリ認メ難キ時ハ驛傳取締人ノ檢査ヲ經
 其事由ヲ記シタル書面ニ証印ヲ受ケ送狀ニ添付發送スヘシ
 第七條 到着シタル運送物ニ損害アル時ハ驛傳取締人ノ檢査ヲ受
 ケ其狀況ヲ詳記シタル書面ニ証印ヲ受ケ發送スヘシ
 第八條 驛傳取締人ニ於テ前條檢査ヲナシタル時ハ其繼越タル地
 ノ取締所ニ急報スヘシ其急報ヲ受ケタル取締所ニ於テハ速ニ其
 事由ヲ取調差立元取締所ニ詳報スヘシ
 第九條 差立元取締所前條ノ報道ヲ受ケタル時ハ直ニ荷主及營業
 人ニ通知スヘシ
 第十條 營業人ハ繼立帳ヲ製シ運送物ノ種類員數及發着時刻并ニ
 損害ノ有無等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ
 但事故アリテ荷主ニ繼返ス時モ本條ノ手續ヲナスヘシ

第拾一條 陸路運送中水運ニ移ス時ハ明治八年第百八十四號布告
回漕貨物取扱條例ニ基キ取扱ヘシ

但水運營業者ト貸錢其他要用ノ件ハ豫メ約定ヲナシ所轄取締
所ヘ届置ヘシ

第十二條 荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從ヒ取扱ヘシ

但別段荷主ノ承諾ヲ經タル者ハ此限ニアラス

第十三條 此細則第十條及第十二條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ
處分セラルヘシ

○ 小飛脚營業取締細則

第一條 小飛脚營業トハ近傍各地ヘ小荷物ノ運送ヲナス者ヲ云フ

第二條 營業人ハ組合規約ニ定ル相當身立金ヲ所轄取締所ヘ備置
ヘシ

但身元金ハ開業出願ノ際差出其金額ヲ願書ニ記載スヘシ

第三條 營業人ハ平素運送ナル地名ヲ所轄取締所ヘ届出看板ヘ其
地名ヲ記入スヘシ

第四條 營業人ハ各地繼立ヲ要スル荷物運送ノ請負ヲナシ又ハ前
條届出外ノ地ヘ運送スルヲ許サス

第五條 荷物ノ受渡ハ必ス帳簿ニ記載シ他日ノ憑據ニ供スヘシ

第六條 此細則第三條及第四條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ處分
セラルヘシ

○ 人馬繼立營業取締細則

第一條 人馬繼立營業トハ人馬諸車等ノ繼立ヲナス者ヲ云フ

第二條 營業人ハ繼立帳ヲ製シ繼立ノ都度貸錢及繼立地名并ニ稼
業人ノ姓名等ヲ記シ置クヘシ

但繼立帳ハ滿一ケ年間之ヲ存置スヘシ

第三條 謂レナク繼立ヲ拒ミ又ハ組合証票ヲ所持セサル人足等ヲ使用スヘカラス

第四條 人馬諸車ノ繼立ハ急行ヲ除クノ外申込ノ前後ニ從ヒ繼立ヲ爲スヘシ

第五條 繼立ニ使用スル人足ハ正直ナル者ヲ撰ミ置クヘシ若シ人足途中ニ於テ不都合ヲ旅人ニ加フルカ又ハ荷物ニ損害等ヲ及ボス時ハ營業人其責ニ任スヘシ

第六條 最寄各地ヘノ距離及諸賃錢定額ハ店頭ヘ揭示スヘシ

第七條 此細則第二條及第三條第六條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ處分セラルヘシ

○

旅人宿營業取締細則

第一條 旅人宿營業トハ總テ諸人ヲ宿泊セシムル者ヲ云フ

第二條 營業人ハ宿泊人名簿ヲ製シ宿泊人ノ住所身分職業氏名年齢等ヲ詳記スヘシ

但官吏ハ其官氏名又隊伍ヲナシタル兵隊ハ其隊號及引卒スル長官ノ姓名及外何人ト記スヘシ

第三條 警察署分署又ハ巡查交番所々在地ノ營業人ハ每夜前條宿泊人名簿ノ寫ヲ以テ警察署分署又ハ巡查交番所ヘ届出ヘシ其他ノ營業人ニ於テハ前同様ノ届書ヲ取纏置巡查巡回ノ都度差出スヘシ

但永ク寄宿スル約定ノモノハ最初一度其事由ヲ届出レハ爾後届出ニ及ハスト雖モ届出ノ節ハ必ス其旨届出ヘシ

第四條 宿泊人名簿ハ滿一ケ年間犯罪人々和書ハ滿三ケ年間之ヲ

十八年十月八日
日濱警察署通知
ヲ以テ第五條
中(乘客)ヲ一
定客ト訂正
ス其通知ハ後
ニ出

存置スヘシ

- 第五條 宿引ヲ出シ又ハ渡船營業人若クハ人力車夫等ト馴合種々ノ手段ヲ以テ旅人ヲ誘引スヘカラス
- 但鎮道停車場又ハ渡船場等へ自家定客ノ周旋ヲナス爲メ特ニ警察署ノ認可ヲ得家族雇人等ヲ出スハ此限ニアラス
- 第六條 單身ノ旅人ト雖モ宿泊ヲ請フ時ハ故ナク拒絶スヘカラス
- 第七條 旅行免狀ヲ所持セサル外國人ハ私ニ宿泊セシムヘカラス
- 第八條 宿泊人所持ノ物品又ハ荷物等ヲ預リタル時ハ大切ニ保護スヘシ
- 但客ノ預リ証ヲ需ムル時ハ之ヲ與フヘシ
- 第九條 宿泊人ヨリ荷物ノ送届又ハ積入等ノ委託ヲ受ケタル時ハ大切ニ之ヲ取扱ヘシ
- 第十條 宿泊料ヲ拂ハサル者アリテ衣類物品ヲ差押ヘ又ハ宿泊人

- ヨリ衣類物品ノ質入賣拂等ノ依託ヲ受ケタル時ハ所管警察署分署又ハ巡查交番所へ申出指揮ヲ請フヘシ
- 第十一條 深夜ニ及ヒ放歌雜沓ヲナシ他客ノ安眠ヲ妨グル等ノ者アル時ハ速ニ差止ムヘシ若用ヒサル時ハ所管警察署分署又ハ巡查交番所へ申出ヘシ
- 第十二條 賣淫ニ類スル猥褻ノ所業ハ勿論假令客ノ依頼タリトモ娼婦妓又ハ酌取女等ヲ招聘スヘカラス
- 第十三條 宿泊人身元副其他探索上ニ係ル事柄ハ本人ハ勿論一切他へ漏洩スヘカラス
- 第十四條 宿泊人ノ變死又ハ所持ノ物品紛失等ノ節ハ可成同宿人ノ外出ヲ止メ置速ニ其事由ヲ所管警察署分署又ハ巡查交番所へ届出指揮ヲ請フヘシ
- 第十五條 組合規約ニ定ムル宿泊料ハ旅人ノ見易キ場所へ揭示ス

へシ

第十六條 此細則第二條及第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十二條第十三條第十四條第十五條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ處分セラルヘシ

○

人力車營業取締細則

第一條 人力車營業トハ人力車ヲ貸シ或ハ自ラ輓キ又ハ雇人ニ輓カシムル等ノ業ヲナス者ヲ云フ

第二條 人力車ヲ新調又ハ購買シタルトキハ其種類員數ヲ所轄取締所へ届出賃錢票ヲ申受車ノ職込ニ釘付スヘシ

但廢棄又ハ賣却シタル時ハ其都度届出賃錢票ヲ返納スヘシ

第三條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乗載スヘカラス
但十歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ五歳未滿ノ者ハ定

員外トス

第四條 軍隊及砲車輻重車ニ行途フ時ハ右方ニ避ケ其他ハ總テ左方ニ避ケヘシ

但阪路ハ上リ車之ヲ避ケヘシ

第五條 前車徐行シ後車疾行スル時ハ後車懸聲ヲナシ前車ハ便宜之ヲ避ケ後車ヲ通過セシムヘシ

第六條 雜沓又ハ狹隘ノ場所若クハ街角橋梁等ヲ通過スル時ハ徐行シ他ノ妨ケトナラサル様注意スヘシ

第七條 道路中央ニ於テ客ヲ乗下シ又ハ車ヲ並ヘ輓キ若クハ道路ニ横ヘ他ノ妨ケトナラサル様注意スヘシ

第八條 市街又ハ雜沓ノ場所ニ於テハ夜中燈火ナクシテ車ヲ輓クヘカラス

第九條 乘客ハ丁座ニ取扱決シテ不當ノ所業ヲナスヘカラス

第十條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ濫リニ休憩シ又ハ他車ト交換スヘカラス

第十一條 旅人宿或ハ飲食店貸坐敷等ト馴合強テ乘客ヲ引付ヘカラス

第十二條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢無禮ノ言行ヲナスヘカラス

第十三條 車内ニ遺留品アリ其主分明ナラサル時ハ速ニ最寄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十四條 此細則第二條及第三條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ處分セラルヘシ

馬車營業取締細則

第一條 馬車營業トハ乗合馬車ヲ貸シ或ハ自ラ使用シ又ハ雇人ニ使用セシムル等ノ業ヲナス者ヲ云フ

第二條 馬車ノ構造及乘客定員等ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

一 車ハ四輪ニシテ其構造堅牢且ツ相當ノ附屬品ヲ備ヘタルモノ

一 馭者ハ滿二十年以上ニシテ馭術ニ達シタル者

一 馬丁ハ身体強壯ニシテ其業ニ耐ユル者

一 乘客ハ馬一匹ニ付六人ヲ限リトス
但十歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ五歳未滿ノ者ハ定員外トス

第三條 馬車ヲ新調又ハ購買シタル時ハ其種類員數ヲ所轄取締所ヘ届出貸錢票ヲ申受室内乘客ノ見易キ場所ニ釘付スヘシ

但廢棄又ハ賣却シタル時ハ其都度届出賃錢票ヲ返納スヘシ
第四條 此細則ニ掲クルノ外ハ人力車營業取締細則第四條以下ノ
各條ヲ遵守スヘシ

第五條 此細則第二條及第三條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ處分
セラルヘシ

陸運稼業人取締細則

第一條 陸運稼業人トハ荷牛馬車荷車駄牛馬駕籠渡守仲仕小揚徒
荷車ノ先率其他陸運諸荷物運搬人足等ノ業ヲナス者ヲ云フ

第二條 牛馬車船駕籠等ノ種類員數ハ開業ノ際所轄取締所へ届出
ヘシ増減シタル時亦同シ

第三條 牛馬車船等ハ組合規約ニ定ル定量定員ノ外濫リニ乗載ス
ヘカラス

十八年十月八
日逕野縣通知
ヲ以テ第四條
中(衝突)ヲ(衝
突)ト訂正
ス其通知ハ後
ニ出

第四條 牛馬諸車ヲ使用シ雜沓又ハ狹隘ノ場所ヲ通過スル時ハ衝
突ノ危害ナキ様注意シ牛馬ハ必ス口ヲ取ルヘシ

第五條 軍隊及砲車輜重車ニ行逢フ時ハ右方ニ避ケ其他ハ總テ左
方ニ避クヘシ

但阪路ハ上リ車之ヲ避クヘシ

第六條 道路ノ中央ニ於テ荷物ノ積卸シヲナシ又ハ牛馬諸車ヲ並
へ輓キ若クハ道路ニ横へ他ノ妨ケトナラサル様注意スヘシ

第七條 謂レナク渡舟ヲ出サス又ハ通漕シ行人ノ妨害ヲナサハル
様注意スヘシ

第八條 市街又ハ雜沓ノ場所ニ於テハ夜中燈火ナクシテ牛馬諸車
ヲ使用スルコトヲ許サス

第九條 此細則第二條及第三條第四條第六條第七條第八條ニ違背
シタル者ハ違警罪トシ處分セラルヘシ

本年本縣甲第九十號布達ハ前二出

本年本縣甲第九十號布達ハ前二出

永式ニ非スト
雖モ參照ノタ
編入ス○甲
第九十號布達
ハ前二出

○明治十八年十月八日滋賀縣通知
本年七月本縣甲第九十號布達旅人宿營業取締規則第五條但書中自家乗客ハ定客及陸運稼業人取締規則第四條中衝突ハ衝突ノ誤刷ニ付正誤ス

○明治十八年七月二十二日滋賀縣甲第四百四號布達

本年本縣甲第九拾號ヲ以テ驛傳營業取締規則相定來ル十月一日ヨリ施行可致旨及布達置候處該營業人中渡守ニ限リ追テ相違候マテ施行延期候條此旨布達候事

○明治十八年七月一日滋賀縣甲第九拾壹號布達

今般甲第九拾號ヲ以テ驛傳營業取締規則相定候ニ付テハ從來營業致來候者ニテ猶繼續營業セントスル者ハ別段願出許可ヲ受ソルニ不及ト雖モ其旨戶長へ届出戶長ハ本則第二條ノ區別ニ從ヒ來ル十月一日マテニ取摺メ縣廳及ヒ所管警察署へ可差出此旨布達候事

第貳百五條

京都府下驛傳營業者へ下附ノ假證票雛形等ノ事

○明治十八年九月二十六日滋賀縣告第百壹號告示

京都府ニ於テ驛傳營業取締規則實施相成候迄左ノ營業者へ戶長ニ於テ左記ノ假證票下渡候旨通知有之候條此旨告示候事

- 一 陸運稼人
- 一 馬車人力車稼人

人足、荷車、荷牛馬、輕尻、駕籠、車ノ先轆等

用紙
寸法
適宜



第貳百六條

驛傳營業ニ係ル統計表式

○明治十八年十月十六日滋賀縣丙第百十六號達

今般驛傳營業ニ係ル統計表式別紙ノ通相定本月ヨリ實施候條每月

十日迄ニ前月分調製本廳へ可差出此旨相違候事

驛遞運輸航海船舶

○第六款 行旅人及驛村遞送者
第貳百七條 途上ニ於テ軍隊并ニ砲車輛重車ニ行達タル時避讓方
ノ事

○明治十八年二月三日滋賀縣告示第十七號告示
途上ニ於テ車馬行達フ時ハ互ニ左方ニ避讓スヘキ習慣ノ處自今軍
隊並ニ砲車輛重車ニ行達フタル時ニ限り右方ニ避讓致スヘシ此旨
告示候事

○第七款 道路橋梁渡船場通行錢関

○第八款 港津并渡船場取締関

○第九款 回漕并航海第拾三
款參看

第貳百八條 湖上漁船取締規則改定ノ事

參 明治十八年二月三日滋賀縣甲第拾號布達

十七年本縣甲
第二十一號布
達ハ第三編第
二百四十三條
（上卷八百二
十二丁）ニ出
造船法規ハ航
布少キニ付登
載セス

明治十七年ニ本縣甲第貳拾壹號布達湖上漁船取締規則第五條第拾
八條左ノ通改正シ同規則第廿條第廿壹條及ヒ第貳拾五條中第廿條
ノ三字刪除候條此旨布達候事
第五條 縣廳ハ造船法規ヲ制定シ検査員ヲシテ之ニ據ラシムヘ
シ但シ造船法規ハ警察本署ニ就キ閱見スヘシ
第拾八條 乗客及ヒ物貨ノ運賃ハ相當ノ價額ヲ定メ豫テ届出ヘ
シ

（十八年七月一日滋賀縣甲第百五號布達ヲ以テ全部
改定スト雖モ參看ノクメ編入ス共布達ハ後ニ出）

十七年本縣甲
第二十一號布
達ハ第三編第
三百四十三條
（上卷八百二
十二丁）ニ出
○造船法規ハ
未タ管下ニ頒
布シキニ付登
載セズ

○明治十八年七月一日滋賀縣甲第百五號布達
明治十七年ハ本縣甲第廿一號布達湖上汽船取締規則別冊ノ通改定
候條此旨布達候事

但現今存在セル汽船船牀ハ追テ改造ノ期ニ至リ規則第貳條ノ造
船法規ニ據リ改造可致候事

（別冊）

汽船取締規則

第壹條 湖上ニ於テ汽船ヲ以テ旅客物貨ノ運送ヲ營業セントスル
者ハ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但シ結社營業セントスルモノハ社則ヲ添フヘシ

第貳條 汽船ヲ新造セントスルハ本縣造船法規ニ據リ調製シタ
ル船体仕様帳ニ明細ナル圖面及ヒ汽機汽機明細書ヲ添ヘ本縣廳
ヘ願出許可ヲ受ク竣工ノ上ハ本則第壹號書式ニ照シ届出検査ヲ

請クヘシ

但シ造船法規ハ警察本署ニ就キ閱覽スヘシ

第三條 造船工事中ハ時々検査員ヲ差遣シ検査セシメ若シ造船法
規ニ照シ不完全ト見認ルキハ改造ヲ命シ又ハ新造許可ノ指令ヲ
取消スコアルヘシ

第四條 汽船ハ左ニ記列スル端艇其他所屬品ヲ整備スルコアラサ
レハ航行スルコトヲ許サズ

第壹 端艇ハ本則第二號表ニ適シ相當所屬品ヲ全備スルモノ

第貳 錨及ヒ錨鎖ハ本則第三號表ニ適シタルモノ

第三 舵ハ其取付堅牢ニシテ豫備ノ轉舵索ヲ船尾ニ備ヘタルモノ

第四 羅盤壹個救命浮子二個以上

但シ救命浮子ハ善良ニシテ廿四時間三十二磅ノ浮力アルモノ

汽船運轉航海規則

- 第五 相當ノ消防器具
- 第六 汚水唧筒壹個以上
- 第七 汽罐及ヒ機關ニ屬スル相當ノ附屬品及ヒ豫備品
- 第八 安全瓣ハ每罐火床面積ノ壹平方呎毎ニ貳分ノ一平方吋ノモノ貳個ヲ備ヘ平生用ユル流力ニ對シ錘量ヲ定メ内壹個ハ外套並ニ鎖輪ヲ備ヘクルモノ
- 安全瓣ハ其封鎖シタルト否トヲ問ハス凡テ機關室ヨリ開キ得ヘキ裝置ヲ設ケ且ツ廢氣管ノ設ケアルモノ
- 但シ安全瓣ノ發條ハ試驗適合ノモノニ限ルヘシ
- 第五條 船體又ハ汽機汽罐其他要部ノ修理若シクハ變更ヲ爲サントスルキハ其箇所及ヒ破損ノ模様等詳細届出着手シ竣工ノ上ハ更ニ届出検査ヲ受クヘシ

辨原本ノマ、

- 但シ修繕工事中ハ臨時検査員ヲ差遣シ検査セシムルコトアルヘシ
- 第六條 定期検査ヲ請フモノハ遲クモ期限前二十日以内ニ本則第四號書式ニ照シ本縣廳ヘ願出ヘシ検査ニ就テノ準備ハ前以テ相違スヘシ
- 第七條 定期又ハ新造検査ノ節ハ船主船長機關手等ヲ立會シテ相當検査ノ上故障ナキモノハ安全辨外套ニ封鎖シ本則第五號假検査證書ヲ下附シ追テ第六號検査證書ト引換ヘ交附スヘシ
- 第八條 定期検査ノ外必要ト見認ル場合ニ於テハ臨時検査員ヲシテ検査ヲ爲サシメ船體汽機等ニ故障アリト見認ルキハ運航ヲ停止シ修繕ヲ命スルコトアルヘシ
- 第九條 乗客ノ定員ハ船室ノ等級ニ據リ左ノ割合ヲ以テ定ムヘシ但シ乗客ノ制限ハ本則第七號離形ノ木票ヲ製シ本縣廳ノ檢印

駁運運輸航海船舶

九百四拾壹

ヲ受ケ船内各室ニ掲シヘシ

上等室 壹坪ニ付〔六尺四方〕 大人 四人

中等室 壹坪ニ付〔全〕 大人 六人

下等室 壹坪ニ付〔全〕 大人 拾人

上甲板ニ雨覆ヲ設ケ下等室ニ充ツルモノ

壹坪ニ付〔六尺四方〕 大人 六人

小船ニシテ中等室ノ設ケナキモノ

上等室 壹坪ニ付〔六尺四方〕 大人 六人

下等室 壹坪ニ付〔全〕 全 拾人

全上上甲板上ニ雨覆ヲ設ケ下等室ニ充ツルモノ

壹坪ニ付〔六尺四方〕 大人 六人

第拾條 各船ノ水脚ハ必ス載貨線ヨリ超ユヘカラス

第拾壹條 船内ニ於テ石炭油其他揮發性ノ油ヲ用ユヘカラス

八年第六十六號布告ハ遊覽縣ノ布令ニ非ス故ニ登載セズ但民衆咸文律類纂初編第五百三十七條ニ出

但シ船体汽機ニ必用ナルレヒシ油ノ類ハ此限ニアラス

第拾貳條 航湖中他船ト先進競争シ或ハ私ニ安全線ノ封鎖ヲ開閉スルヲ禁ス

第拾三條 航湖中他船ト衝突シ或ハ暗礁ニ乗掛ケ其他船体汽機等ニ破損ヲ生スル等ノ異變アル時ハ若港ノ上船長ヨリ其事實ヲ最

寄警察署又ハ分署ヘ届出尙ホ速ニ其景況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ本縣廳ヘ届出ヘシ

但シ難破ノ節ハ明治八年第六拾六號布告内國船難破及漂流物取扱規則ニ據ルヘシ

第拾四條 各船出發時間及ヒ乗客物貨ノ運賃並ニ船長機關手ノ氏名及ヒ免狀ノ種類等ハ豫テ本縣廳ヘ届出置變更シタルト全線届

出ヘシ 第拾五條 客引ヲ山シ又ハ人力車夫等ト馴合ヒ其他種々ノ手段ヲ

十八年十二月
十一日滋賀縣
甲第百六十八
號布達ヲ以テ
第十七條改正
其布達ハ後ニ
出

以テ乘客ヲ誘引スルヲ禁ス
 第拾六條 運送間屋旅籠屋等へ手数料ヲ附與スルコトアルモ運賃定額ノ登割ヨリ超過スヘカラス
 第拾七條 運輸中紛失品等アルカ又ハ乘客及ヒ物貨ニ不審ト見認ルモノアルトハ着港ノ際成ルヘク乘客又ハ物貨ノ上陸ヲ見合セ置キ速ニ其地警察官吏へ申出指揮ヲ受クヘシ
 第拾八條 開廢業及ヒ造船廢船等ノ願書ニハ定繫港戶長ノ與印ヲ受クヘシ
 第拾九條 官許ヲ得スニテ營業又ハ造船及ヒ本則第四條第拾條第拾壹條第拾貳條第拾三條第拾四條第拾五條第拾六條第拾七條ニ違背シタルモノハ違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ尙ホ情狀ニ據リ行政ノ處分ヲ以テ壹ケ年以内其船ノ運輸又ハ營業ヲ停止スルコトヲ

ルヘシ
 第二拾條 運輸及ヒ營業上ニ就テハ何人ノ所爲ト雖モ船主又ハ船長其責任スヘシ

(第壹號)

新造漁船出來検査願

漁船

何々丸

右者豫テ御許可ヲ得造船竣工候ニ付何月何日何地ニ於テ出來形御検査被成下度就テハ右御検査濟ノ上ハ豫テ上願ノ通り何地何港ノ間運輸營業致度此段願上候也

年月日 船主 何 某印

新造運輸航海船舶

滋賀縣令 何 某殿

船長 何 某印

(定製港戸長與印)

(第貳號)

登簿噸數	貳百四拾噸ヨリ		長	幅	深	容積
	第一	第二				
百貳拾噸迄	二隻	第一	一四、	五、〇	二、二	九一、〇
百貳拾噸ヨリ	一隻	第二	二〇、	五、五	二、七	一四五、二
六拾噸迄	一四、	物容積	五、〇	二、二	九一、〇	二二、二
(第三號)	一隻		一四、	五、〇	二、二	九一、〇

經原本ノマ

表 鎖 錨 及 錨

噸數	大挽小大錨		合量	挽錨	錨ヲ除ク		錨ノ最長	錨ノ最長	錨ノ最長	錨ノ最長
	大錨	小錨			第一小錨	第二小錨				
五〇三	三九二	七八四	一四〇	五六	二〇	二〇	七五	五	三	三
七五三	四七六	九五二	一四〇	五六	二〇	二〇	七五	五	三	三
一〇〇三	五六〇	一一〇	一六〇	八四	八四	八四	七五	五	三	三
一二五三	六四四	二八八	一六八	八四	八四	八四	七五	五	三	三
一五〇三	七二八	四五六	二三四	一一二	一一二	一一二	七五	六	三	三
一七五三	八一二	六二四	二五二	一一二	一一二	一一二	七五	六	三	三
二〇〇三	九二四	六三三	二八〇	一四〇	一四〇	一四〇	七五	七	四	四
二五〇三	一一〇三	三九九	四二〇	一九六	八四	一六五	七五	七	五	五

本表ノ噸數ハ漁船ハ總噸數ノ三分ノ二ヲ取ルヘシ且其五拾噸未滿ハ本表ノ比例ニ據リ本船相當ノ錨鎖ヲ備フヘシ

驛運運輸航海船舶

(第四號)

汽船何丸第何回御検査願

一本船々主氏名若シハ會社ノ名

一定繋場

一航路

一登簿噸數

一公稱馬力

一前期検査ノ場所

一前期検査證書有効期限 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄

一前期入渠又ハ陸上ク検査年月日

一前回汽罐水壓試驗年月日

右ノ汽船當時何港碇泊若シハ入渠陸上ク中ニテ検査ノ用意相調
候ニ付何年何月何日御出張御検査被成下度此段奉願上候也

年月日

滋賀縣令 何 某殿

船主若シハ船長氏

名印

(第五號)

船檢査假證書

番號	船名	船主名	航路	公稱馬力	汽機種類	汽缸種類	汽壓	檢査地	噸數	定員	證書	上旅客	中旅客	下旅客	品所屬

前記ノ船舶明治何年何月何日検査ノ上記載ノ航路航通ニ適當ナルヲ以
テ此検査證書ヲ附與スル者也
但此證書ハ本文記載ノ月日ヨリ三箇月限り無効ナルヘシ

明治 年 月 日

船檢査主任 滋賀縣船檢査員 何 某印
機關檢査主任 滋賀縣船檢査員 何 某印

驛遞運輸航海船舶

十八年十二月
十一日滋賀縣
甲第六十九
號布達ヲ以テ
第十七條實施
ニ付附令アリ
其布達ハ前ニ
出

本縣甲第六
十八號布達ハ
前ニ出

第十七條 漁船乗客ノ住所氏名身分職業年齡等ハ帳簿ニ詳記シ置
キ若シ港ノ際船長ヨリ其寫ヲ以テ該地警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
若シ航湖中乗客物貨等ニ不審ト認ムルモノアルカ又ハ紛失品ア
ルトキハ成ルヘク乗客物貨ノ上陸ヲ見合セ置キ該地警察官吏ノ
指揮ヲ受クヘシ

但乗客人名ノ記載方ニ付官吏ハ官氏名兵隊ハ隊名氏名隊伍ヲ
爲シタルトキハ其引率スル上官ノ氏名外何名ト記スヘシ尤モ
乗客人名簿ハ一ケ年間保存スヘシ

○明治十八年十二月十一日滋賀縣甲第六十九號布達

今般本縣甲第六十八號布達湖上漁船取締規則第十七條改正ニ付
乗客ノ人名等記載スヘキ儀ハ當分大津鹽津間及大津長濱間通航ノ
漁船ニ限リ施行候條此旨布達候事

但本文ノ外通航ノ漁船ト雖モ臨時警察官吏ノ指職ニ依リ施行セ

シムル儀モ可有之事

第貳百九條 旅客和船取締規則

○明治十八年三月十一日滋賀縣甲第三十六號布達

旅客和船取締規則別冊ノ通相定メ來ル四月十五日ヨリ實施候條此
旨布達候事

但從前營業者ムシテ引續營業セントスル者ハ本文日限マテニ願
出免許ヲ受クヘシ

(別冊)

旅客和船取締規則

第一條 湖上ニ於テ和船ヲ以テ旅客ヲ乗載シ渡航ヲ營業スルハ從
來早船ト稱スル甲板ヲ備フル船ニシテ舳艫間三間以上ノモノニ
限ルヘシ

但近傍小渡ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

驛遞運輸航海船舶

第二條 前條早船營業ヲ爲サントスル者ハ其船名船体及ヒ附屬品并ニ乗組人員發着寄港等ヲ詳記シタル書面ニ戶長ノ與印ヲ受ケ其定繫港所轄ノ警察署ヘ願出免許ヲ受クヘシ

但結社營業ヲ爲サントスル者ハ先ツ其目的及ヒ資本募集等ノ方法ヲ詳記シタル願書ヲ以テ所轄郡役所ヲ經由シ本縣尉ノ認可ヲ受クヘシ

第三條

- 早船ハ船体堅牢ニシテ所轄警察署ノ免許證ヲ受ケ平常左ニ列記シタル附屬品及ヒ水夫等ヲ整備シタルモノニアラザレハ運航スルコトヲ許サス
- 一 船体相當ノ帆及ヒ綱具
 - 二 鍵竿貳本以上
 - 三 船燈及ヒ號角各壹個以上
- 但免許證ハ客室ノ見易キ所ニ釘付スヘシ

十八年五月二十五日遊覽縣
甲第六十二號
布達ヲ以テ第
三條ヲ改正ス
其布達ハ後ニ
出

十八年三月十

七日遊覽縣内
郡課通知ヲ以
テ第三條第五
項中(二)擬テ
(二)擬ト訂正
シ第四條中第
三序ノ下ニ
(一)坪ハ六尺
四方)ノ制註
ヲ加フ其通知
ハ後ニ出
十八年五月二
十五日遊覽縣
甲第六十二號
布達ヲ以テ第
五條ヲ改正ス
其布達ハ後ニ
出

四 左右舷ニアル窓及ヒ甲板上ニアル船口ニ堅牢ナル戸扉ノ設アルモノ

五 船櫓ノ豫備一挺以上

六 乗組水夫及ヒ櫓ノ員數等第四條ノ制限ニ適スルモノ

第四條 早船ハ船梁ヨリ艦梁迄ノ間面積三坪一坪ハ六尺四方未滿ハ櫓四挺水夫五人ヲ備フヘシ三坪以上一坪ヲ増ス毎ニ櫓一挺水夫一人ヲ増スヘシ

但水夫ハ強壯ニシテ實業ニ耐ユル者ニ限ルヘシ

第五條 早船ハ船梁ヨリ艦梁迄ノ間ノ六分ヲ以テ客室トシ殘ル四分ヲ以テ荷室ニ充テ判然其區域ヲ設ケ客室壹坪六尺四方ニ乗客八人ヨリ超過スヘカラス

但客室外ヘ客ヲ乗セ又ハ荷室外ヘ荷物ヲ載スヘカラス

第六條 早船ヲ用ヒス近傍小渡船營業ヲ爲サントスル者ハ其船体

乗組人員及ヒ發着港等ヲ詳記シタル書面ニ戶長ノ與印ヲ受ケ其
定繫港所轄ノ警察署ヘ願出免許ヲ受クヘシ

但免許証ハ船中見易キ所ニ釘付スヘシ

第七條 前條小渡船乗組人員ハ本則第五條ニ準シ船梁ヨリ楡梁迄
ノ間面積壹坪六尺四方ニ乗客八人ヨリ超過スヘカラス

第八條 早船及ヒ小渡船ノ賃錢ハ最寄同業者ニ於テ協議ノ上相定
メ所轄警察署ヘ届出ヘシ變更シタルト亦全シ

但早船ハ出船時刻ヲモ届出ツヘシ

第九條 早船及ヒ小渡船營業者免許証ヲ毀失シ其他免許証ニ列記
シタル條件ニ異動ヲ生シタルトハ所轄警察署ヘ届出訂正又ハ再
渡ヲ請ヒ廢業ノ節ハ其旨届出免許証返納スヘシ

第十條 乗客及ヒ物貨ヲ取扱フニハ懇切ヲ旨トシ若シ渡航中異變
アルトハ最寄警察署又ハ分署交番所若クハ巡行警察官ヘ申出指

十八年五月二
十五日遊覽艇
甲第六十二號
布達ヲ以テ第
七條ヲ改正ス
其布達ハ後ニ
出

十八年五月二
十五日遊覽艇
甲第六十二號
布達ヲ以テ第
十二條第十五
條改正第十六
條刪除第十三
條第十四條
トシ以下連條
線下更ニ第十
三條ヲ加フ其
布達ハ後ニ出

揮ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ成ルヘシ乗客及ヒ物貨ノ上陸ヲ止
メ置クヘシ

但難破ノ節ハ難破船規則ニ從フ可シ

第十一條 渡湖中他船ト速力ヲ競争シ其他危險ノ所爲ヲ爲スヘカ
ラサルハ勿論暴風等ノ節ハ運航ヲ爲スヘカラス

第十二條 強テ乗船ヲ勸メ又ハ乗客ニ對シ定價以上ノ賃錢ヲ請求
スヘカラス

第十三條 免許証ヲ賣買又ハ貸借スルヲ禁ス

第十四條 警察官ハ時々船体其他附屬品等ヲ檢査シ船体ニ破損所
アルカ又ハ本則ニ違背シタル廉アルトハ時宜ニ依リ臨時運航ヲ
停止スルヲアルヘシ

第十五條 官許ヲ得ス營業シ又ハ停止中私ニ運航シ若クハ此規則
第三條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ

驛運航航海船舶

九百五拾七

本年本縣甲第三十六號布達ハ前ニ出

違背シタルモノハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ
第十六條 前條違警罪ノ處分ニ付シタルモノ其他不正ノ所爲アルキハ其情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

○明治十八年三月十七日滋賀縣内配課通知
本年三月本縣甲第三十六號布達旅客和船取締規則中誤脱ノ廉左ニ訂正ス

第三條中

○ 第一 艦櫓ノ豫備ニ挺以上トアルニハ一ノ誤
第四條中 面積三坪ノ下(四坪ハ六)ノ割註ヲ脱ス

○明治十八年五月二十五日滋賀縣甲第六拾貳號布達

十八年本縣甲第三十六號布達ハ前ニ出

相違原本ノマ、布達ノ誤ナラフ

明治十八年三月本縣甲第三拾六號布達旅客和船取締規則中第三條第五條第七條第十二條第十五條左ノ通改正シ更ニ第十三條ヲ設ケ第十三條ヲ第十四條トシ以下逐條繰下ケ第十六條刪除候條此旨相達候事

○ 第三條 早船ハ船體堅牢ニシテ所轄警察署ノ免許證ヲ受ケ平常船燈號角豫備ノ艦櫓其他相當ノ附屬品ヲ整備シタルモノニアラハレハ運航スルコトヲ得ス

但免許證ハ客室ノ見易キ處ニ釘付スヘシ
第五條 早船ハ舳梁ヨリ艦梁迄ノ間ニ於テ適宜客室ヲ設ケ判然荷室ト區域ヲ立テ一坪(六尺)ニ乗客八人ヨリ超過スヘカラス
但客室外へ客ヲ乗セ又ハ客室内へ荷物ヲ載スヘカラス

第七條 前條小渡船乗客人員ハ舳梁ヨリ艦梁迄ノ間面積壹坪(六尺)

驛遞運輸航海船舶

ニ八人ヨリ超過スヘカラス

第十二條 強テ乗客ヲ勸メ又ハ乗客ニ對シ定價以上ノ賃錢ヲ請求シ或ハ客引ヲ出シ若シハ人力車夫等ト申合セ其他種々ノ手段ヲ以テ乗客ヲ誘引スルコトヲ禁ス

第十三條 早船營業者ニシテ運送問屋旅館等へ手数料等ヲ付與スルコトアルモ運賃定額ノ壹割ヨリ超過スルコトヲ得ス

第十五條 官許ヲ得ス營業シ又ハ停止中私ニ運航シ若シハ此規則第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ニ違背シタルモノハ違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ

○明治十八年七月七日滋賀縣内記課通知
本年五月本縣甲第六十二號布達第十五條中第十三條ノ下ニ第十四條ノ四字脱落セルニ付正誤ス

スル原本ノマヽスルノ誤ナラン

十八年七月七日滋賀縣内記課通知ヲ以テ第十五條中第十三條ノ下ニ(第十四條)ノ四字ヲ加フ共通知ハ後ニ出

本年本縣甲第六十二號布達ハ前ニ出

第貳百拾條

湖上ニ於テ海員技術免狀ヲ所持セス漁船船長タルト欲スル者出願方ノ事

○明治十八年七月三十一日滋賀縣甲第百拾四號布達
湖上ニ於テ海員技術免狀ヲ所持セス漁船船長タルト欲スルモノハ願書ニ履歷書相添ヘ本縣廳へ願出ヘシ試驗ノ上免狀ヲ下付ス但從前試驗ヲ受ケ船長タルモノハ別段試驗ヲ要セス更ニ免狀ヲ下附スヘシ此旨布達候事

第貳百拾壹條

北海道轉籍移住者渡航手續細節中改正ノ事

○明治十八年十二月八日農商務省第四拾四號達
明治十六年六月第六號達北海道轉籍移住者渡航手續細節第三條ニ三菱會社共同運輸會社トアルヲ日本郵船會社ト改ム此旨相達候事

十六年第六號達ハ第三編第百四十六條(上卷八百三十三)ニ載スル同年七月九日滋賀縣甲第七十五號布達中ニアリ

○第拾款

眩燈眩燈點火方ニ係ル關

○第拾壹款

燈臺建設及河港出入錢

第貳百拾貳條

羽後國酒口港船舶出入港錢取立方廢止并ニ淡路國
明神港修繕費及筑前國地島港波止修繕費支消ノ爲
メ入港船舶ヨリ港錢取立方ノ事

○明治十八年三月三十日滋賀縣告第四十一號告示船舶所有者及
船乘營業人へ
兵庫福岡兩縣ヨリ入港船舶ニ關係ノ港錢取立方及ヒ山形縣ヨリ同
取立方廢止ノ儀左ノ通申越候條此旨船舶所有者及船乘營業人へ告
示候事

○一兵庫縣下淡路國津名郡草香村明神港修繕費支消ノ爲メ去ル明治
十五年以降二十ヶ年間入港船舶ヨリ港錢取立ノ儀今般十ヶ年間
トナシ港錢取立方ハ左ノ通更正ス

一五反帆以上諸船舶帆一反ニ付 金一錢宛

但帆ハ兩端ヲ除去シ算定ノ管

一五反帆以下ノ諸船一艘ニ付 金二錢

一福岡縣下筑前國宗像郡地島村地島港波止修繕費支消ノ爲メ本年
二月十日ヨリ向三十年間入港船舶ヨリ左ノ通港錢取立ッ

一漁船 一艘ニ付 金五錢

一日本形十反帆以下船舶帆一反ニ付 金二錢五厘

一同十一反帆以上二十反帆以下船舶帆一反ニ付金二錢

一同二十一反帆以上 帆一反ニ付 金一錢五厘

一西洋形船舶 一艘ニ付 金五厘

但碇泊五日ヲ過ル時ハ更ニ本項ノ通五日毎ニ取立ルモノ
トス

一山形縣下羽後國飽海郡酒田港修繕費消却ノ爲メ出入船舶ヨリ港

錢取立來候處滿期ニ付本年一月一日ヨリ廢止ス

第貳百拾三條

播磨國飾磨港船舶入港錢取立方廢止及ヒ土佐國甲浦港燈臺建築費支消ノ爲メ入港船舶ヨリ港錢取立方ノ事

○明治十八年五月八日滋賀縣告示第六十三號告示船舶所有者及船乘營業人へ高知縣下甲浦港港錢取立方及ヒ兵庫縣下飾磨港港錢取立方廢止ノ儀左ノ通申越候條此旨船舶所有者及ヒ船乘營業人へ告示候事

○高知縣下土佐國安藝郡甲浦港へ人民自費ヲ以テ燈臺建築候ニ付該費支消ノ爲メ入港ノ船舶ハ本年五月一日ヨリ來ル明治二十八年六月三十日マテハ左記ノ通同年七月以降ハ永年右半額港錢取立

一日本形船四反帆以下 一艘 金四錢

但日數三日以上滯港ノ釣留漁船ニ限リ四日目ヨリ金二錢ヲ減ス

一同五反ヨリ十五反帆マテ 每一反ニ付 金二錢増

一同十六反帆以上 每一反ニ付 金三錢増

但甲浦港内定繫ノ漁船ハ此例ニアラス

一西洋形船舶 一噸ニ付 金三錢宛

一兵庫縣下播磨國飾磨港港燈臺建築費支消ノ爲入港船舶ヨリ港錢取立來候處滿期ニ付本年一月一日ヨリ廢止ス

第貳百拾四條 青森縣下青森竿燈建築費却費并ニ竿燈燈稅取立方

年限延期ノ事

○明治十八年十月八日滋賀縣告示第六號告示船舶所有者及船乘營業人へ青森縣下東津輕郡青森竿燈建築費却費取立之儀本年十月三十一日滿期ノ處尙本年十一月一日ヨリ來ル廿五年十月三十一日迄向フ七

九百六拾六
夕年間繼續取立并同年燈燈稅ノ儀モ同シク向ツ七夕年限リ従前ノ
方法ニ據リ徵稅ノ儀許可候旨該縣ヨリ申越候條此旨船船所有者及
船乘營業人へ告示候事

○第拾貳款 難破船附ノ漂流物

第貳百拾五條

船舶及ヒ諸物品等流失ノ節届出方ノ事

○明治十八年七月三十日滋賀縣中第百拾貳號布達

(本文ハ第三百
五拾壹條ニ出)

○明治十八年八月十九日滋賀縣乙第四拾壹號達 郡役所戸
長役場へ

(本文ハ第三百
五拾壹條ニ出)

○第拾三款

船舶ニ係ル雜則第九款參看○税關及船稅收入簿
款ニ出五章第八

第貳百拾六條

新造船檢査ノ節用フル檢印ノ事

○明治十八年一月二十日滋賀縣丙第六號達郡役所

地方官制改
正ニ依テ收稅
課ハ白リ收稅
部ト改マル

新造船檢査ノ節ハ是マテ郡役所ノ檢印用ヒ來候處自今縣廳ノ烙印
ニ改正シ該印ハ收稅課ヨリ下付スヘク候條此旨相達候事

行現 滋賀縣布令類纂第四編上卷畢

明治十九年十一月二十五日出版御届
明治二十年五月廿三刻成

滋賀縣平民

近江國甲賀郡水口村
第千番屋敷住

編纂並
出版人並

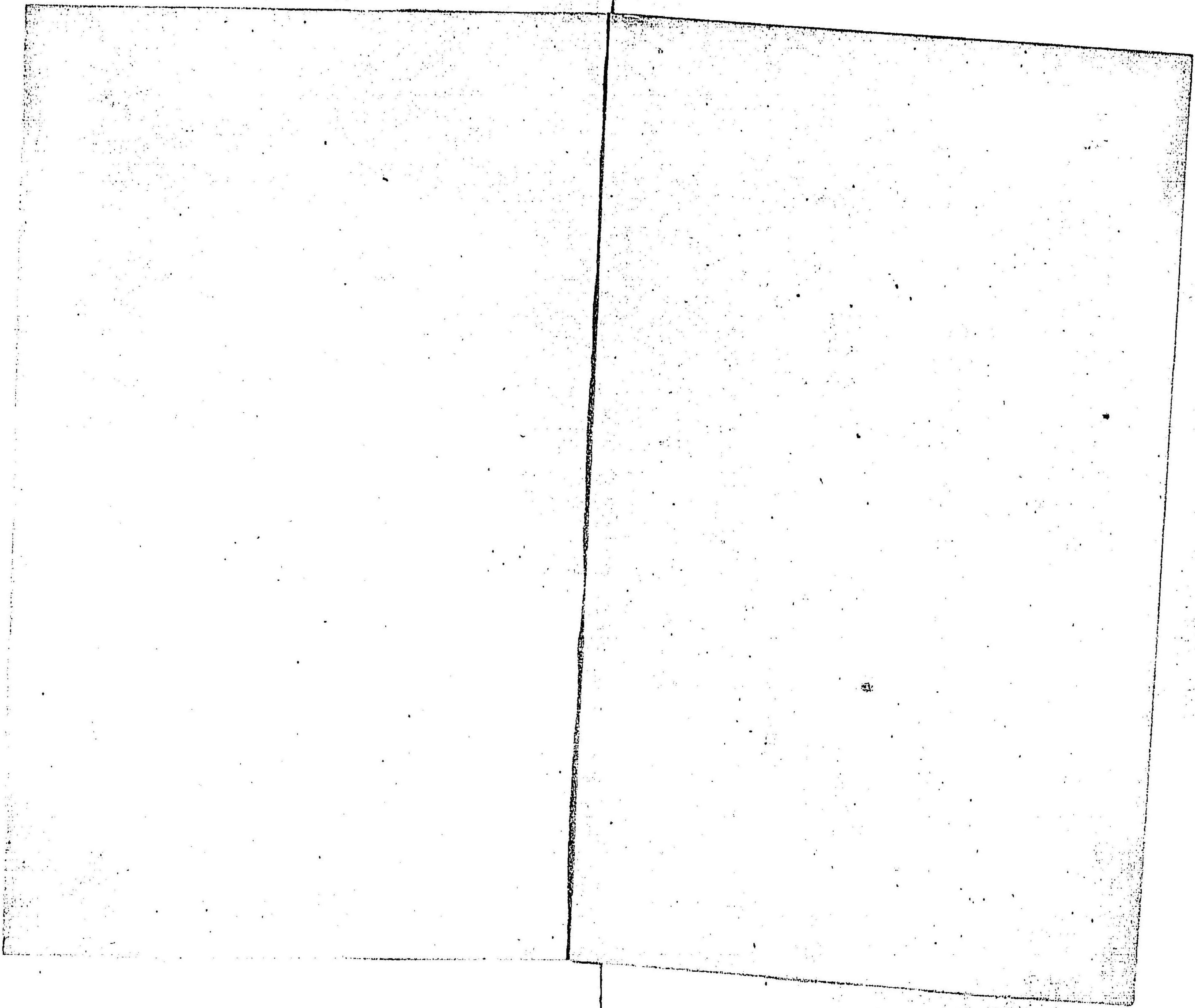
田中知邦

近江國滋賀郡大津川口町
第三十九番屋敷寄留

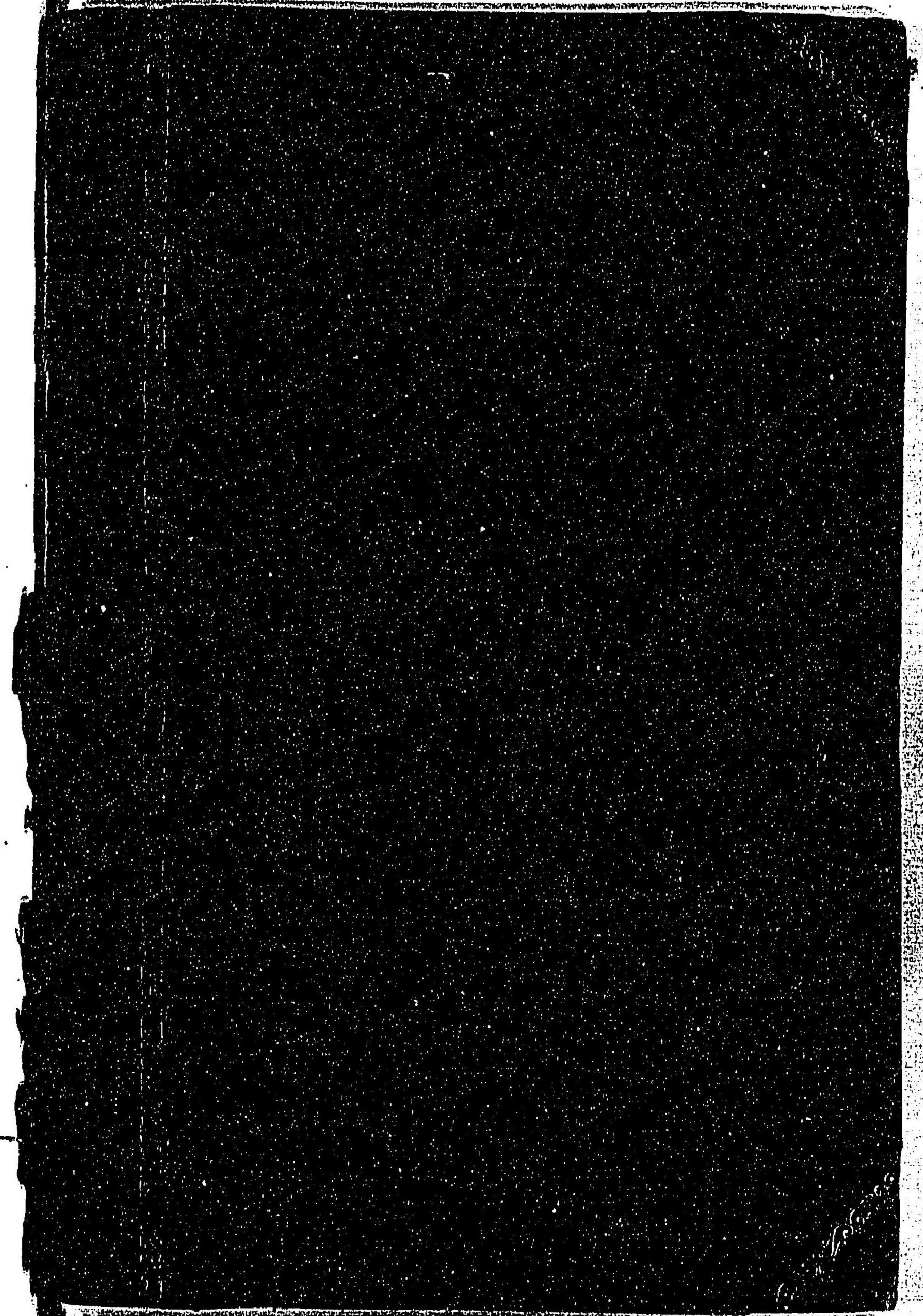
印刷並製本所

滋賀縣大津川口町

商報會社支店



定價金貳圓



禁
電
子
式
複
写

031272-008-9

CZ-1113-67-06

現行滋賀県布令類纂

田中 知邦/編

M15-24

BBD-0396



